みらい すくすく 通信
509号
この通信に掲載の野菜のお届け日
2021年 7月26日 ～ 7月30日
2021年 7月 11日発行
有機農協のお届け便 ゆうきの実

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報をお伝えします。

北海道有機農協の農家の１年と畑の今をお伝えしていきます

岩見沢・栗沢あおぞら農園 2ヶ月後

1 ： 3棟の小松菜 ハウス。10 日で出荷終了
次は、いんげん や ほうれん草 などを栽培
その後に、小松菜 などを栽培予定

2 ： 3棟の白かぶ ハウス。25 日まで出荷予定
次は、ほうれん草 などを栽培
その後に、小松菜 などを栽培予定

3 ： 1棟の小ねぎ ハウス。31 日まで出荷予定
次は、小松菜 などを栽培
その後に、ほうれん草 などを栽培予定

あおぞら農園では、収穫の7割を占めるハウス栽培を９棟で3回転させています。土を耕やし種を撒き、収穫が終わると雑草や収穫残余を片付けて、また、土を耕やし種を撒くことを3回繰り返し、年に合計２５回の収穫を目指しています。

この９棟のハウスでは、連作障害（同じ作物を同じ畑で作り続けると起こる生育障害）を第一に考え、同じハウスで同じ科の作物を1年間は栽培しないようパソコンで計画を立てています。しかし、なかなか計画通りにはいかずに少しずつ遅れ遅れになり、最後のほうれん草のハウスでは全部収穫する前に雪が積もりあきらめる事も。

一年で一番大変なのが今の時期。収穫と出荷作業に追われながら、この炎天下の中で収穫の終わったハウスの片付けや、次の播種の準備をしなければならず、てんてこ舞いになっているそうです。

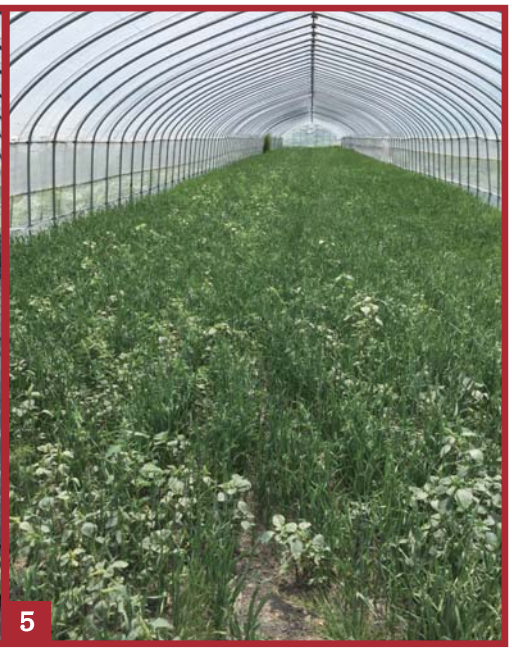
伺ったのは6月中旬。３棟ずつある小松菜と白かぶの収穫が真っ最中で、１棟は小ねぎが出荷間近状態。もう1棟はいんげんを定植したばかりで、１棟はえん麦（緑肥）を植えたハウスの全９棟でした。
3週後の今では、３棟の小松菜は収穫が終了を迎え、白かぶと小ねぎ収穫が最盛期。いんげんは、つるをのばし後1～2週間で花が咲き、７月末には出荷が始まるそうです。

林さんの1日は、朝6時から奥様と２人で２時間かけて小松菜 200 束と小ねぎ 300 束程の収穫した後、出勤してくるパートさんが加わり、かぶ 1000 株の収穫作業を2～3時間行うそうです。午後からは、女性陣は作業小屋で収穫した野菜の調整や袋詰め作業を2～3時間程行っています。

林さんは日中、収穫の終わったハウスの片付けや、いんげんのつるの誘引、路地南瓜の定植など炎天下での外の作業を行い、夕方5時くらいから暗くなる8時くらいまで、玉レタス 1000 玉程の収穫をしています。

組合では、林さんの農産物の集荷に、週３回午前中に伺っています。集荷日は、パートさんと共に朝から収穫したかぶや玉レタスの箱詰め作業。伺った時も、林さんが「ちょっと待ってもらえる？」と作業小屋で梱包しておりました。４種の野菜出荷にハウスや路地の畑作業など、優先順位を強制的につけ追われながらも仕事をこなしておりました。

4 ：1 棟のいんげん ハウス。31 日より出荷予定



5 ：1 棟の緑肥ハウス。ほうれん草を播種予定